

C01r 現代天文学にとって天文学史は必要か～個人的経験から～

中村士 (帝京平成大学)

まず、現代天文学にとって天文学史は必要か、どのような意義があるのかを、研究者の立場から個人的経験をもとに議論する。天文教育や展示・公開などの実用的な面を別にすれば、天文学の過去に関心を持つか否かは、その国民や民族における科学文化の成熟度の指標であると言ってもよい。次に、天文学史研究の現状を見るために、過去70年になされた江戸時代～戦前の日本天文学史研究について概観する。これに関連して、筆者がかつて在職した国立天文台を例にとり、そこで過去に行われた天文学史研究、ナショナルセンターとしての、天文学文書史料（江戸幕府天文方文書と個人文庫資料が主）の取扱い、それらに基づく天文学史研究のあり方と方法について説明する。同機関が現在所蔵する天文学史資料を、研究や利用サービスのために有効に活用することが重要である。特に、インターネット等による所蔵史料の公開と、他所における類似関連資料の情報提供は、両者が相乗効果を伴うため、利用者、研究者にとっては資するところが大きい。また、そうした情報を提供する機関側の、史料に対する書誌的知識、専門知識の向上も必要になる。そのためには、同機関出身のOB・OGや外部の研究者の協力をあおぐことも有用なのではないか。